

神奈川県立子ども医療センターオレンジクラブ



ボランティアニュース

243号 2024年4月号



発行 神奈川県立子ども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦興

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>

「第50回子ども医療センターボランティア研修会に豊島先生をお招きして」

オレンジクラブ代表 三木美雪

コロナ禍でなかなか思うように開催できなかったボランティア研修会でしたが、この度3月18日、センター講堂で開催することができました。開催の案内が県の便りに掲載され、より多くの県民の方々の目に留まり、講堂の席が参加者の皆様で埋まりました。皆様熱心にボランティア活動に関する説明に耳を傾けて下さいました。今後、オレンジクラブボランティア活動への参加ご希望者も数多く、多方面にわたるグループ活動に参加していただけるとの事で、新しいお仲間と一緒に活動できる日を楽しみにしています。

今回の研修会は、神奈川県立子ども医療センター周産期医療センター長・新生児科部長の豊島勝昭医師にご講演をお願いいたしました。豊島先生は、私と廊下でお会いすると、いつも声をかけて下さいます。オレンジクラブの活動の様子をお話すると、豊島先生は、スマホで季節の飾りつけやオレンジクラブマルシェの写真を撮ってくださいます。豊島先生、私たちの活動をいつも気にかけてくださり、とても心強く感じています。また超多忙の中、いつもオレンジクラブを応援いただきありがとうございます。



豊島先生は、2017年に放送された周産期医療を題材としたドラマ『コウノドリ』で医療監修を担当されました。このたびの先生のご講演は、24時間365日体制のNICU（新生児集中治療室）で、新生児の救命救急医療に取り組むひとりの医師が、家族につらい現実を語る一場面から始まりました。ご両親にとってかけがえのない大切なお子さんが、これから先、病気や障害と共に生きていかなければならない現実、戸惑う両親、NICUで実際に繰り返される一コマです。

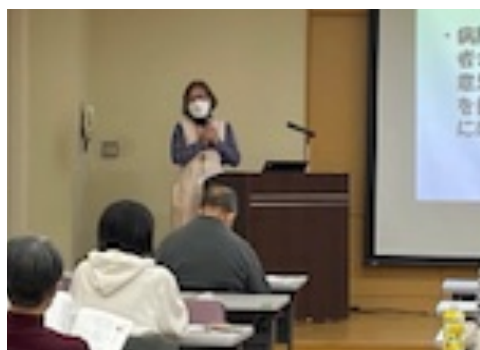
豊島先生から「障害って何だろう？」と参加者へ問いかけがありました。障害の意味について参加者みんなで話し合いました。このテーマは、折に触れてボランティアさんと一緒に、これからもずっと考えていきたいと感じています。

また先生から、NICUで懸命に生きる赤ちゃんのために、毎月誕生会を開く家族のお写真を見させていただきました。一日、一週間、一か月先には、我が子は命が尽きてしまうかもしれない、毎月のお誕生日をお祝いする喜びに満ちたご家族のご様子を目のあたりにいたしました。ご家族にとって一日一日がとても大切でかけがえのない、我が子との瞬間になるのです。我が子の短い命を受け入れて、懸命に日々を送られているご家族様を、オレンジクラブも陰ながら応援してまいりたいと誓いました。また、もう一枚、色とりどりのお花が咲く屋上での家族写真を拝見しました。小さな赤ちゃんを胸に抱き、おじいちゃんおばあちゃんもお揃いのご家族記念写真です。もう我が子は生きられないと知り、記念に屋上で写真を撮られたそうです。赤ちゃんはこの後、天国へ旅立ったそうです。園芸ボランティアの皆様が丹精込めて花を咲かせてくれている屋上庭園で、美しいお花が赤ちゃんのご家族皆様に寄り添っていました。

最後に、普段私たちが入れないNICUの最新のお部屋を紹介してくださいました。施設の老朽化に伴い、改修工事をして特別な個室の6床が新たに増設されました。赤ちゃんの保育器の横に家族も一緒に過ごせるよう、成人用のベッドが配置され、リクライニングチェアもあり、大きな窓から自然光を採り入れる工夫もされていました。明るくゆったりとした心地良い部屋の印象を受けました。産後のお母さんが横になった状態で赤ちゃんと面会したり、添い寝をしたり、夜間も一緒に過ごすことができるそうです。

先生からは、1500g未満の極低出生体重児が100人に一人、早産は妊婦さんのだれにでも起こり得ることとお伺いしました。私たちが想像するのとは違い、NICUは思っている以上に特別な場所ではないのです。500gで生まれた赤ちゃんのため、医療に奮闘される豊島先生をはじめとするNICUの救命救急医療に取り組むすべての医療スタッフの皆様に、大いなる敬意を抱き、心からの応援をいたします。

オレンジクラブボランティアは、NICUを退室された後も、お手伝いが必要となるお子様とご家族の皆様にとって、センターが心地よい空間となりますよう努力してまいります。豊島先生、ご講演ありがとうございました。



研修会でボランティアの説明する三木さん

チャリティイベント『メリーゴーランド がやってくる！！』

メリーゴーランド研究所 所長 テラミチ健一朗

このチャリティイベントを主催する『メリーゴーランド研究所』は横浜本牧にある造形会社です。撮影の美術セットや百貨店ディスプレイの制作を行っています。私たちの制作物をひょっとしてTVCMなどでご覧になったことがあるかもしれません。

その傍らで、移動式メリーゴーランドの制作も行い全国各地で多くの人々に愉しんでもらっています。こういった自分たちの特性を活かしたチャリティ活動が、気付けば今年で10年の節目を迎えました。

実は私、当病院には少なからぬご縁があります。父が以前勤務していたこと、また私も幼少期に丘の上の官舎で過ごしたこと。そんな背景もあり当病院の存在は自分の原風景として残り続け、またその役割にも以前から共感していました。幼少期に過ごした場所で、回り巡って(まるでメリーゴーランド)こんな形で自分の技術が活きたとは思えないものです。

『メリーゴーランド がやってくる！！』は病気と闘う子ども達へ、長い冬を乗り越えた贈り物として早春に開催を心がけています。持っていくメリーゴーランドも、車椅子やストレッチャーなどで、どなたでも乗って愉しめるように毎回改造しています。

コロナ渦以前は音楽隊、ピエロ、紙芝居、髪結いなどで一座を組んで訪問していました。感染対策が落ち着いたらまたそんな賑わいも復活させたいものです。

最後に、メリーゴーランド研究所は当病院の子ども達をこれからも応援していきます。



3月18日(月) ボランティア研修会が開催されてキクちゃんも参加した。会場の講堂に入って驚いた。会場はほぼ満員なのだ。ボランティア希望の方 38名とオレンジクラブ会員 10名合計 48名。今まで何度か研修会に参加したが、10名ぐらいの参加者だったが、‘コロナ明け’で皆さんが研修会を待っていてくださったのかな? 八尋事務局長から、ボランティアとの係わりのおはなし。オレンジクラブ会長の三木さんから、ボランティアの活動について。きょうだい預かり保育士の小林さんからは、きょうだい預かりとボランティア活動を振り返って、のおはなし。新生児科部長 豊島先生は「当院を利用する子ども・ご家族への支援」の講演、改めてオレンジクラブ存在の大きさを認識した。研修会参加者とオレンジクラブ会員交流会では、小さなグループを作り、参加された方々とお話が出来て有意義だった。ぽぽんたに興味を持った方がいてコーディネーターに繋いだ。この方は4月のぽぽんたの活動を見学に見えるそうだ。

4月イベント

月	火	水	木	金
1	2	3	4	5
	(外来・つばさの木)クラウン	(5西) SHJ 15:00~ (HCU2) SOC 15:00 オンライン		
8	9	10	11	12
	外来ミーティング	(5南・4東) ぽぽんたお 話会 14:00 (5西) SOC 15:00~	(肢体つばさの木) SOC 10:10 オンライン	
15	16	17	18	19
(5西クリーン) フット サル 15:00~15:30 オンライン	(外来・4南) クラウン (ひだまり・総合待合) ひろちゃんとフラダンス	(HCU2) タッピングタッチ 14:00~15:00 (4東) SHJ 15:00	(こころの診療病棟) 盲導犬と遊ぼう 15:00 (4西) SOC 15:00~	
22	23	24	25	26
		(5西) SHJ15:00~ (4南・HCU2) ぽぽん たお話会 (重心施設) 神奈川フィル 4重奏 14時~14時30分	(4東4南5南クリーン) SOC 15:00 オンライン エリックさん	
29	30			

- ・毎月1回 フラワーアレンジメント (4か所で実施)
- ・毎週火曜日 10:45~11:15 高野さんとピアノで歌おう
- ・毎週火・金曜日 重心作業
- ・毎週月火水金曜日 10:30~17:00 きょうだい預かり
- ・第3水曜日 手芸
- ・第2・第3水曜日 縫製活動
- ・月~金曜日 患者図書・外来
- ・第4木曜日 作業
- ・第2・第4火曜日 (他火曜日適宜) 園芸活動
- ・毎週火~金曜日 10:30~14:00 ピアサポート

5月11日(火) ボランティア調整会議

